

いけごいせきぐん

池子遺跡群

(逗子市No.140遺跡)

調査期間
20061001～20070131
20070801～20071231
20080816～20091130

所在地
逗子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内

時代
縄文
弥生
平安
中世
近世以降



作成日:20090515 更新:20100309

概要

本遺跡の調査は、南関東防衛局から委託を受けた池子米軍小学校新設事業に伴う発掘調査です。遺跡は京浜急行線神武寺駅の西側に位置し、逗子市街地を西流する田越川支流の池子川流域に発達した低地とその周囲の崖面にあります。1989年～1994年には、池子米軍家族住宅建設に伴う発掘調査が行われ、弥生時代の河道から出土した豊富な農耕具の出土で話題になりました。今回の調査地点は、住宅建設地点の北側部分を対象に、2006～2009年度まで調査を行いました。標高は約13～19m、調査面積は全体で約13,000㎡に及びます。2009年度は、8月中旬から11月一杯までの3ヶ月半調査を行いました。

発掘調査では、近世以降、平安時代、古墳時代の遺構・遺物、中世や縄文時代の遺物などが出土しています。近世以降では杭列が25条発見され、水田等の耕作に関連する遺構が主体的に発見されました。過去の調査では、現在の神武寺駅付近で近世の屋敷跡が発見されましたが、今回の調査地点では、主に村を支えた耕作地に相当すると考えられます。平安時代では溝状遺構(川の跡)や杭列等が発見され、当地の開発が古く溯ることが判明しました。また遺物は在地で作られた土器の他に須恵器・灰釉陶器、さらには金属製品や獣骨類が出土しました。縄文時代は、当時の遺構



▲6区 全景



▲8区北側 全景

そのものは発見されませんでしたが、平安時代の溝状遺構の覆土中から前期や中期の土器が少量出土しています。

現在は全ての発掘調査を完了し、出土品整理作業を進めています。調査報告書は2010年度に刊行する予定です。



▲杭列